



# 湘南桜友会報

第6号 平成19年12月1日発行

発行責任者 竹内 猛  
編集責任者 内海 孝夫  
事務局 茅ヶ崎市中海岸 4-4-11  
浦田憲一方

## ～公開講座に思う (Ⅲ)～

魅力ある大学にする以外生きる道はない！

湘南桜友会会長 竹内 猛 (昭和33年政経)

大学全入時代に突入した今日、生き残るために学習院はどうあるべきかを公開講座を通して考えてみよう。この稿を始めたわけだが、学校が各地で開催している公開講座という催事を、桜友会員というOBの立場から見直してみると、この会合は結果的に地域桜友会総会でしかなく、学校が意図する宣伝告知の場には余りなっていないのではと断じざるを得ない。

もし、その目的を完遂させようと考えるならば、参加対象者やそれに合わせた日時場所等を中心に講座編

成の再検討が必要だろう。これは、横浜・長野の会合に参加した私の感想である。

全入時代は少子化時代だ。お客様即ち学生向けの教科や設備の内容改善は勿論のこと、小中一貫校や付属高校の開設や吸収がどんどん始まっているということだ。子供の囲い込みである。資金力のある有名大学ほど手廻しが早いようである。

わが学習院はというと、湘南桜友会諸姉兄には、ぜひとも今年5月発行の「桜友会新緑号」掲載の波多野院長のお話「これからの学習院」をお読み頂きたい。有難くそのご抱負もよく分かるお話である。

その中で気になった点の一つは、「8,000人

規模の大学では、看板教授を抱えることも新しい学部を作ることも出来ないのも、最低でも上智並みの12,000人位にもってゆきたい。出来ないと将来は、合併や提携も考えねばならない。」と述べておられる点だ。

次に「品格あるおおらかさ」を教育の特徴とし、それを「大学から学習院という学生全体にもあると思っている」といわれた点だ。(この項については、機会があれば別述したい。)

私の中高生頃は紙不足の時代だった。その昭和

20年代の雑誌

「世界」「心」「思想の科学」等には、

安倍・清水・

小宮など当時の学

習院の諸先生方

のお名前がいつも載

っていたものであ

る。文芸誌を入れ

れば、切りがない

ほどだ。おかげで

私は、学習院大

学・清水ゼミ・社

会学研究会・清水ルームの卒業生になれたのだ。

清水ゼミや社会学研究会の学生は、この4年間の種々な経験を基に学問の世界や実業界で、夫々が日本再建に貢献しようという意欲と志を持った人達であったと思う。まさに院歌の不死鳥精神であったのだ。

最近、波多野院長はじめ学習院の先生方のマスコミへの出演や出稿が少なくなっているような気がしている。専門分野に限らず、裏技でも私達の前に出て来て欲しいと思っている同窓生は多い。現役の諸先生や役職員の皆さんの学外活動にも、大きなエールを贈りたい。生きる道につながるからだから。(終)



### 『父の残照』

井上紀子 (昭和60年大学院)

正面に烏帽子岩、左手に江ノ島。そして遠く、右手に伊豆半島。この眺めに魅せられ、癒され、励まされた父の半生が、この春、静かに幕を下ろした。死を目前に、何度も繰り返された言葉「ありがたいねえ」を残して。



皮肉にも、肉体なき今こそ、父＝城山三郎の存在を強く感じる。戦争一色で駆け抜けた青春時代。戦後、人生を模索し、組織と個人のあり方を、この湘南の地、茅ヶ崎で問い続けた。

青い空と青い海。その高さや広さを実感する事の喜び。「悩めること自体、幸せなんだよ。」一父の言葉が突き刺さる。自分の目で見、耳で聞く。その上で、自分で考え、判断し、選択できることの有り難さ。そんな当たり前のことが当たり前であり続ける世こそ、平和と幸福の原点である、と。

生け垣の花を愛で、鳥の声に微笑みながら、住宅地の路地を散策するのが好きだった父。今、そのお気に入りだった道を歩きながら、父の残した宿題を、頭に、胸に刻み込む。海が海であり続けるために、空が空であり続けるために。青く、蒼くあり続けるために。

気がつけば、落ち葉を踏む季節になった。澄んだ空気の中、海まで足を伸ばしみる。「やっぱり、海は冬がいいよ。」一父の声が聞こえてきた、気がした。<2007年11月 茅ヶ崎にて>

(写真は井上紀子さん著書「城山三郎が娘に語った戦争」)

#### <事務局よりのお願い>

当会の運営は会員の皆様の年会費(2千円)により維持されておりますので、本年(19年)の会費未納の方は郵便振込みにて、加入者名:湘南桜友会、口座記号番号:00270 6 93815に、ご納入いただきたく、よろしく申し上げます。

### 《会員の紹介》

事務局次長 番場康之 (昭和52年法学)

私が学習院大学にお世話になったのは、三島由紀夫事件直後のいわゆる「70年代」初期である。当時、「内ゲバ」の過激化により多くの大学が、正常運行不可能となっており



ましたが、学習院大学は自然に恵まれたキャンパスのなか「学問の府」足りえた数少ない大学のひとつでありました。法曹界を目指し「法学研究会」に入部し人並みに勉強に励んだ私ですが、志なかに挫折し、その後は人並みに社会人としての生活を送り始めました。平成15年に至り、高澤先輩から湘南桜友会設立のお話をうけ、準備会に参加させていただきました。その後竹内会長の指導の下、いまは故人となられた事務局の間宮君と会計を担当させていただきながら諸先輩・諸後輩との親交を得ることができましたのは学習院で学べた最大の果実であります。今後も、多くの学習院縁故の方たちが湘南の地でお会いできる機会を得るため、「湘南桜友会」がますます発展するようご協力のほどお願い申し上げます。

### 《会員の近況》

#### \*桜友会主催「月例会」講演

湘南桜友会会員の高沢みゆきさん(平成11年文学)「臨床心理士」が9月13日(木)、目白・百周年記念館にて「子どもの心を知る～その危機と対応」と題して多数の聴講者を前に講演をされ好評を博しました。

#### \*「混合診療の違法性」のNEWS

11月8日(木)の朝刊各紙で報道された混合診療の勝訴に関する朝日新聞の切り抜きを添付します。清郷伸人氏をご存知と思いますが、湘南桜友会会員(昭和50年文学)で、サークル活動「ゴルフの会」の幹事役としてもご活躍されています。本会では、機会がありましたら、清郷さんのお話をお伺いする場を作りたいと思っています。



判決後に記者会見する原告の清郷伸人さん(7日、東京・霞が関で)

**「私一人だけの問題ではない」**  
原告の清郷さん

「今回の判決は私一人だけの問題ではない。混合診療をめぐる訴訟で勝訴した原告の清郷伸人さん(60)は7日、判決後の記者会見で、こう訴えた。「一刻を争う重病の患者さんが合理的な費用で治療が受けられるよう、国は制度を改めてほしい」

腎臓がんを患う清郷さんは日常生活は送れるも「この制度が改められるように闘っていきたくて語った。」

「の、頭と首の骨にがんが転移した状態。混合診療だと月70万円以上の自己負担になるという。闘病しながら、弁護士を代理人に立てずに自ら訴状などの書面をつくって、一人で裁判に臨んできた。「保険料で強制的に徴収したものの対価として給付があるのに、どういふ根拠で剝奪できるのか、ずっと疑問に思っていた。健康が許す限り、この制度が改められるように闘っていきたくて語った。」

**\* 知永古美術館の紹介**

湘南桜友会会員の中村功夫さん(昭和24年男子高)が、素晴らしく、かつ貴重な美術品を展示されています。下記にご案内しますが定期的に入れ替えもされています。ブログ等で日程をご案内致しますので、ご参照ください。

(住所 藤沢市辻堂東海岸1-7-38)  
Tel 0466-33-0654

**知永古美術館**  
**展示品入れ替えのご案内**  
**17世紀初期伊万里～**  
**19世紀幕末の古伊万里まで!**  
**期間 9月1日(土)～**  
**12月24日(月)**  
**同時開催**  
**「ユーモラスな志田窯の作品展」**

さまざまな種類の皿鉢、壺、碗類を通して伊万里の変遷をご覧ください。



**\* 歌う作曲家兼作詞家兼ピアニスト**

湘南桜友会会員の秦万里子さん(昭和49年女子高)が9月27日に六本木・スイートページルにてコンサートを開き、多数の人の喝采をうけました。今後とも演奏予定についてはブログ等にてご案内いたします。



**【19年度(前半)の事業・サークル活動報告】**

**\* 長野桜友会訪問**

6月16日(土)長野市にて開催された第67回公開講座にあわせ、この度姉妹桜友会関係を結んだ長野桜友会を竹内会長はじめ役員、会員有志5名が訪問しました。



**\* 地引網大会**

7月28日(土)に恒例の地引網大会を開催しました。ご家族を含め101名の大勢のご参加を頂き、お子様の“宝さがし”のイベントに始まり、巨大なエイに大騒ぎし、取れたてのシラスを生で、釜揚げにして、用意した天ぷらを肴に賑やかな楽しい一時を過ごす事ができました。長野桜友会や昭和寮会からも参加があり、夏休みの海を楽しんでおられました。



**\*バーベキュー・果物狩り大会**

夏休み最後の日曜日の9月2日、藤沢市遠藤にある弁慶果樹園にて恒例のバーベキュー・果物狩り大会が開催されました。滋賀県より参加された会員をはじめ、ご家族、お子様を含め40名が参加し、バーベキューを楽しみながら、梨や地鶏の卵などを採取し、大いに盛り上がりました。



**\*第11回 SUC 交流・懇親会**

9月22日(土)、グランドホテル湘南にて明治大学の主催で15校168名が参加し、明大マンドリンクラブOBの演奏に酔いしれ、盛会であった。来年度は駒沢大学が主催しますが、再来年(平成21年)は当会が主催校になりますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

**\*19・秋「ウォーキングの会」**

10月24日(水)、称名寺・県立金沢文庫の見学と八景島(海の公園)の散策をウォーキングを兼ねて実施。素晴らしい秋晴れに恵まれ、海を眺めての中華バイキング等、11名の参加者一同、爽やかな1日をすごすことが出来ました。



**\*第2回会員交流ゴルフ大会の速報**

11月22日(木)湘南シーサイドカントリー倶楽部で第二回の大会が開催されました。快晴にめぐまれ、鎌倉桜友会の会員4名を含め18名が参加、優勝は標文雄氏(昭35年政経)でした。



**【20年事業計画・サークル活動予定】**

- \* 2月中旬 鎌倉・東慶寺散策他(学習院昭和寮会との共催)
- \* 5月9日(土) 第5回総会及び懇親会
- \* 5月 会報(第7号)発行
- \* 5月14日(水)「春季ウォーキングの会」
- \* 7月末 地引網大会(辻堂海岸)
- \* 8月~9月 バーベキュー・果物狩り大会
- \* 9月23日(火) SUC交流懇親会
- \* 11月 ゴルフ大会
- \* 12月 会報(8号)発行
- \* 12月上旬 クリスマス・年忘れ懇親会

**編集後記** お陰様で湘南桜友会の活動も活発になり会報も充実してきました。これからも皆様の近況や活動状況等の投稿をお待ちしています。又、<http://oyshonan.exblog.jp> 湘南桜友会のブログもお忘れなくご覧下さい。

尚、今号より4頁の紙面を作りました。改めて皆様のご協力をお願いする次第です。

(編集グループ 内海、櫻原、品川)